

趣旨	この活動は精華町の地域活性化のため ①住民同士の間人関係・つながりを活性化する ②核家族化に伴う子育て世代や定年退職後の高齢者の孤独化を防止する ③新旧の地域の交流を図る
目的	活動を通じて、主催者と参加者の達成感と充実感を共有する 元気を増やす力と病気を予防する力をともに満たす活動にする 野菜作りを通して交流を活発にして、人とのつながりの輪を広げる
目標	共通の目的をもつ人達とコラボすることで参加者の交流の輪を広げる 野菜を作って、収穫して、みんなで食べる 収穫した野菜で何を作るかみんなで考える 栽培と調理をする喜びを感じ、その大切さを知る 素材そのものの味を知る

プロジェクトのセールスポイント

みんなで作って獲って食べて...元気の輪

活動の報告 こんな活動をして、こんな反応がありました

●実施の概要●

農産物の育成・収穫、カフェレストラン

①北部包括支援センターでの農活クラブにジョイント、農地の一部を借用。農活クラブで野菜の植え込み、管理、収穫を学ぶ。毎月第2・4火曜日の活動（ラジオ体操 農作業 喫茶）に参加。農活クラブメンバー11名とプロジェクト参加メンバー15名のジョイント、相互協力関係を構築し、合同でのイベントの企画も考慮する。収穫物は2020年1月28日農活クラブ主催のお好み焼きパーティーに提供する。

メンバー以外に、親子1組（2歳男の子、母）が定例的に参加。お好み焼きパーティーにも追加で1組（小2、母）が参加し、多様な世代で交流できた。

②メンバー私有地（野秋氏の畑）を借用。毎月第1・3・5火曜日の午前中に活動（10月14日より毎月第1・3・5月曜日および土曜日の午前中に変更）カフェレストランで使用する食材の育成を目的とする。プロジェクトメンバーで野菜の植え込み、管理、収穫する。

メニューは12月2日に検討した。収穫物は2019年12月21日野菜カフェレストラン（むくのきセンター調理室）で調理、収穫祭では参加者を募集し開催する。

収穫祭には、プロジェクトメンバー以外に、他のプロジェクトメンバーにも参加を呼びかけ、10名の参加が得られた。

イベント名	実施日	参加者数	
●農活クラブの活動	9月10日	7	
	9月24日	8	
	10月8日	9	
	10月22日	6	
	11月12日	9	
	11月26日	9	
	12月10日	9	
	12月24日	11	
	1月14日	7	
	農活クラブの終了式	1月28日	14
	●野秋さんの畑	9月3日	7
		9月17日	6
10月1日		6	
10月14日		6	
10月28日		7	
11月2日		6	
11月4日		3	
11月9日		4	
11月18日		5	
11月23日		4	
11月25日		7	
12月2日		7	
12月7日		4	
12月16日		4	
収穫祭の準備		12月20日	8
収穫祭	12月21日	30	
(計26回) 延人数合計		203人	
メンバー会議	実施日	参加者数	
企画会議(6回)	5月29日~8月13日	58	
畑候補地見学	7月22日	8	
種購入	9月13日	5	
収穫祭のメニュー確認	12月2日	7	
(計9回) 延人数合計		78人	



●参加者の声や様子● 【収穫祭当日に頂いたコメント】

野菜がいっぱいでおいしかったです。収穫も楽しめました

キャロットケーキとキッシュと鍋が美味しかったです

風味ある食材をおいしく頂きました。おにぎりは△に出来ずに口になりました。

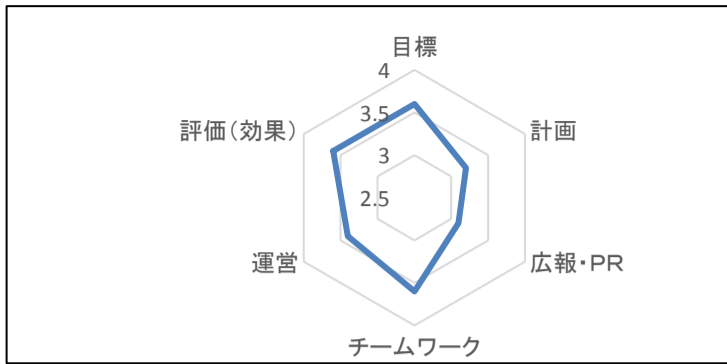
体に優しそうなたくさんのお料理がとても美味しかったです。

あそんだりするのがたのしかった

ダイコンはすばらしく美味しい！畑で野菜作りもしたい

すごく楽しかったです。和気あいあいとした雰囲気でもた来たいと思います。

活動の評価 やってみたいこんなことを思いました



4：期待を上回った
 3：期待通りであった
 2：期待を少し下回った
 1：期待をかなり下回った
 0：不明

●全体的にすべての項目で基準を上回っており満足度は高い結果であった。

- ①目標 3.6↑
 - ・目標を決める前にしっかり会議が持てた（綿密に計画することができた）。
 - ・町内に知り合いが無かったが、繋がりが持てて、趣旨・目標に向かった活動だった。
 - ・高過ぎず、低過ぎず明確な目標だった。
- ②計画 3.2
 - ・（水やり、間引き）実施時期・段取り等の計画が不明確な部分があった。
 - ・スケジュールを作物に合わせるのが難しかった。
- ③広報・PR 3.1
 - ・高齢者に向けての広報・PRができなかった。チラシ等の配布が高齢者に向けてはできていなかった（保健センター等の若い世代にはできていた）。（中間報告で意見を求めていたにも関わらずできなかった）
 - ・周知の期間が短かった。
- ④チームワーク 3.6↑
 - ・それぞれの得意分野を活かしてチームワークよく活動できた。
 - ・みんなが意見を出し合っている範囲でお互い協力し合い役割分担することができた。
- ⑤運営 3.4
 - ・収穫祭の前に全体での打ち合わせができなかった。
 - ⇒会計担当に買い出し等負担が掛かった。
- ⑥評価 3.6↑
 - ・メンバー同士和気あいあいと活動できた。
 - ・参加者同士の交流が図れた。
 - ・収穫祭に他プロジェクトの人も参加してくれた。
 - ・活動資金のやりくりが大変だった。⇒今後も継続する場合、対策が必要。

手ごたえを感じたこと ・良かったこと	大変だったこと・反省すべきこと	気づいたこと・学んだこと
<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を栽培して収穫することが出来て良かった。 ・きょういく（今日行く所がある）、きょうよう（今日用事がある）につながった。 ・野菜づくりを通して栽培方法を学んだり、作ったことがない料理を作ることができて良かった。 ・普段はスーパーで買った野菜を食べているが、野菜を作ることによって本来の野菜の味を思い出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが多い分、連絡体制を確立することが難しかった。 ・役割分担を負担が偏らないように細かく決めておくほうが良かった。 ・農薬を使うか使わないかなど、大前提になることは最初から決めておくべきだった。 ・前例のないことをしていく大変さはあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの個性を尊重しつつ団結できていた。 ・共有する目的を持つことにより得られる心の豊かさを学べた。 ・メールで連絡を取っていたが伝わり方のニュアンスが難しいところもあった。直接会って話すのとは違い、共有することの難しさを学べた。 ・会議で自分では思い浮かばないような沢山の意見が出て良かった。

これからに向けての課題

野菜カフェレストランプロジェクトの継続の問題

継続する場合：体制、予算、栽培方法について参加者と事前にコンセンサスを得る必要がある。

メンバー

和泉あや子、梅山順子、大下史子、古金谷和美、小山眞司
 佐藤芽生、中村勝信、西口望、野秋博史、久川亮祐、藤田千紗
 松浦寛二、松本幸子、森田吉弥、和田宏美

メンバーの感想

楽しい野菜作りを通じて仲間意識が出て団結できて良かった。

何にでもチャレンジしてみることで、人との繋がり等が広がっていくことを実感した。

収穫祭での子どもや参加者の皆さんの笑顔を見て心が和んだ。

普段できない経験ができて楽しく元気になれた。

共有する目的を持つことにより得られる心の豊かさを学べた。

参加者との交流や連携を持つことができた。

活動が無ければ引きこもりになっていたかも知れないと思うと活動に参加できて良かった。

畑での作物の成長を感じながら過ごせたのが良かった。

食材を作る経験ができて私自信の食への関心が高まった。

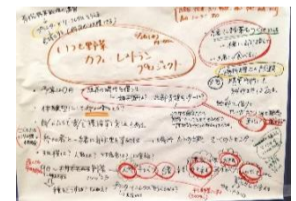
まず自分が楽しく活動できた。その中で元気のおすそ分けができた。

活動日が多く大変と覚えることもあったが、野菜の味に感動して楽しさが勝った。

精華町に親しみを持つことができた。

プロジェクト立ち上げから実施まで

企画会議



活動実施



12月21日収穫祭



にんじんケーキ



法蓮草のキッシュ



菜飯のおむすび

